

二〇二〇年度入学試験

試験問題

国語

注意

- 一、開始のチャイムが鳴るまで開いてはいけません。
- 二、受験番号を解答用紙の三カ所<sup>1</sup>に書き、答えはすべて**解答用紙**に書きなさい。
- 三、問題は **1** から **6** までで、十ページにわたって印刷してあります。  
なお、問題用紙のほかに別紙があり、表に**別紙1**、裏に**別紙2**が印刷されています。
- 四、終了のチャイムが鳴ったら、すぐに筆記用具を置きなさい。

セントヨゼフ女子学園高等学校

1

次の①～⑧の傍線部分について、漢字は読みをひらがなで書き、ひらがなは漢字に直しなさい。

- ① 小舟が波間を漂う。
- ② はさみで布を裁つ。
- ③ 廊下で先生に会積する。
- ④ 実績が顕著である。
- ⑤ 父は銀行につとめている。
- ⑥ 大通りに店をかまえる。
- ⑦ おこづかいをけんやくする。
- ⑧ 大いにふんきして勉強する。

2

別紙1の文章を読んで、あとの各問いに答えなさい。

問1 傍線部分(1)と用法・はたらきが同じものを次の中から一つ選び、その記号を書きなさい。

ア そんな平凡な答えでは面白くもない。

イ 今学期の遠足も運動会も楽しかった。

ウ 雨が降っても出かけます。

エ そのことは山口さんも知っている。

問2 傍線部分(2)「このケースです」とありますが、このケースとは何ですか。本文中から三十五字以内で抜き出して、初めと終わりの五字を書きなさい。(句読点も一字に数える。)

問3 傍線部分(3)「同じこと」とありますが、何と何がどのような点で同じだというのですか。説明しなさい。

問4 傍線部分(4)「どこに問題があったのでしょうか」とありますが、どこに問題があったと筆者は述べていますか。三十字以内で説明しなさい。(句読点も一字に数える。)

問5 傍線部分(5) 『修飾語』を取り除いて考える」とありますが、修飾語を取り除くとはどういうことですか。次の中から適当でないものを一つ選び、その記号を書きなさい。

ア 思い込みに惑わされず内容を重視し物事の本質を考えること。

イ 感傷やイメージに左右されず冷静に物事をとらえること。

ウ 情緒的な表現をやめて冷徹に情報を読み込み考えること。

エ 美しい言葉や巧みな言い回しを用い物事の本質をとらえること。

問6 傍線部分(6) 「人間の宿命」とありますが、わたしたち人間はどういう宿命を背負っていると筆者は述べていますか。それを説明した一文を本文から抜き出して、初めの五字を書きなさい。

**3** 別紙2の文章を読んで、あとの各問いに答えなさい。

問1 傍線部分(1) 「物腰のやわらかな町」とありますが、ここに使われている表現技法を漢字で書きなさい。

問2 傍線部分(2) 「情」の部首名を書きなさい。

問3 傍線部分(3) 「フルドグヤ」とありますが、なぜカタカナで表記されているのですか。三十字以内で説明しなさい。(句読点も一字に数える。)

問4 傍線部分(4) 「目も変わってくるんだな」とありますが、どのように変わるのでか。四十五字以内で説明しなさい。(句読点も一字に数える。)

## 4

次の文章を読んで、あとの各問いに答えなさい。

堀河院の御時、勘解由次官明宗とて、いみじき笛吹きありけり。ゆゆしき心おくれの人なり。院、笛聞こしめされむとて、召したりける時、帝の御前と思ふに、臆して、わななきて、え吹かざりけり。

本意なしとて、相知りける女房に(1)仰せられて、「(2)私に坪の辺りに呼びて、吹かせよ。われ、立ち聞かむ」と仰せありければ、月の夜、(3)かたらひ契りて、吹かせけり。「女房の聞く」と(4)思ふに、はばかりかたなくて思ふさまに吹きける。世にたぐひなく、めでたかりけり。

帝、感に堪へさせ給はず、「日ごろ、上手とは聞こしめしつれども、かくほどまでは思しめさず。いとどこそめでたけれ」と仰せ出されたるに、「さは、帝の聞こしめしけるよ」と、たちまちに臆して、さわぎけるほどに、縁より落ちにけり。「安楽塩」といふ異名を付きにけり。

(「十訓抄」より)

注(※) 堀河院||第七十三代天皇。和歌、音楽にすぐれる。

勘解由次官明宗||勘解由次官は官職名。明宗は笛の名手。

ゆゆしき心おくれの人||大変に気後れする人。

わななきて||体が小刻みに震えて。

本意なし||本来の意志希望に反する。残念だ。

私||個人的に。

坪||建物、塀などに囲まれた狭い庭。坪庭。

はばかりかたなく||遠慮することなく。

感に堪へさせ給はず||感動をおさえることがおできにならず。

さは||さては。

「安楽塩」||楽曲の名。安楽塩に、あな、落縁を掛けてある。

問1 傍線部分(1)「仰せ」、(3)「かたらひ」を現代かなづかいに改め、すべてひらがなで書きなさい。

問2 傍線部分(2)「私に坪の辺りに呼びて、吹かせよ。われ、立ち聞かむ(個人的に女房の庭に呼んで吹かせよ。わたしは立ち聞きしよう)」とありますが、帝がこのように言ったのはなぜですか。二十五字以内の現代語で説明しなさい。(句読点も一字に数える。)

問3 傍線部分(4)「思ふに」とありますが、この主語はだれですか。次の中から一つ選び、その記号を書きなさい。

- ア 帝(堀河院)                      イ 明宗                      ウ 女房                      エ 作者

問4 この作品の出典の『十訓抄』は説話集です。次の中から説話集を一つ選び、その記号を書きなさい。

- ア 伊勢物語                      イ 源氏物語                      ウ 宇治拾遺物語                      エ 平家物語

このページは空白です。

5

弥生さんのクラスでは公民の時間に「国民の充実感」について話し合いをしました。次に示すのはそのクラスでの話し合いの記録です。これを読んであとの各問いに答えなさい。

伊藤先生 今日の内閣府の国民世論調査の一部を用意しました。これらのグラフからどのようなことが読み取れるか、グループで話し合ってみましょう。

弥生 まず図1・Aと図1・Bを比較してみましょう。

葉月 全体として充実感を感じている人の割合がAいるよね。

さつき 特に若い年齢層においてと答えた人の割合が大きく変化しているよ。

弥生 でもどちらの調査でも、1よりも2の方が充実感を感じている人が多いみたいね。

葉月 なぜだかわからないけれど、私の家でも父よりも母の方が自由な時間を楽しんでいるように見えるわ。

さつき 次に図2・Aと図2・Bを比較してみましょうか。

弥生 どんなときに充実感を感じるかが変化してきているようね。以前は「家族団らんの時」の次に「友人や知人と会合、雑談している時」が多かったのに、今は「ゆったりと休養している時」が二番目にきているよ。これはどういうことなのかな。

葉月 これは（ ）に充実感を感じる人が増えているということではないかしら。

さつき 確かに、私も休日はどこかに出かけたりするよりも、家でんびり過ごすことが多いかなと思う。

弥生 私の父や母も普段は仕事で忙しくしているから休日くらいはのんびり過ごしたいみたい。

葉月 そういえば図2・Aと図2・Bのグラフでも「仕事にうちこんでいる時」に充実感を感じる人はBいるわね。仕事よりもプライベートなことに充実感を感じる人がCいると言うこともできるかもしれないね。

さつき 「働き方改革関連法案」が可決されたっていうニュースを見たけれど、「働く」とか「仕事」ということに対する考え方も変わりがつつあるよね。

弥生 つまり、私たちの生活やものの考え方が時代とともに変わってきているということだね。

図1—A 現在の生活の充実感(2008年調査)

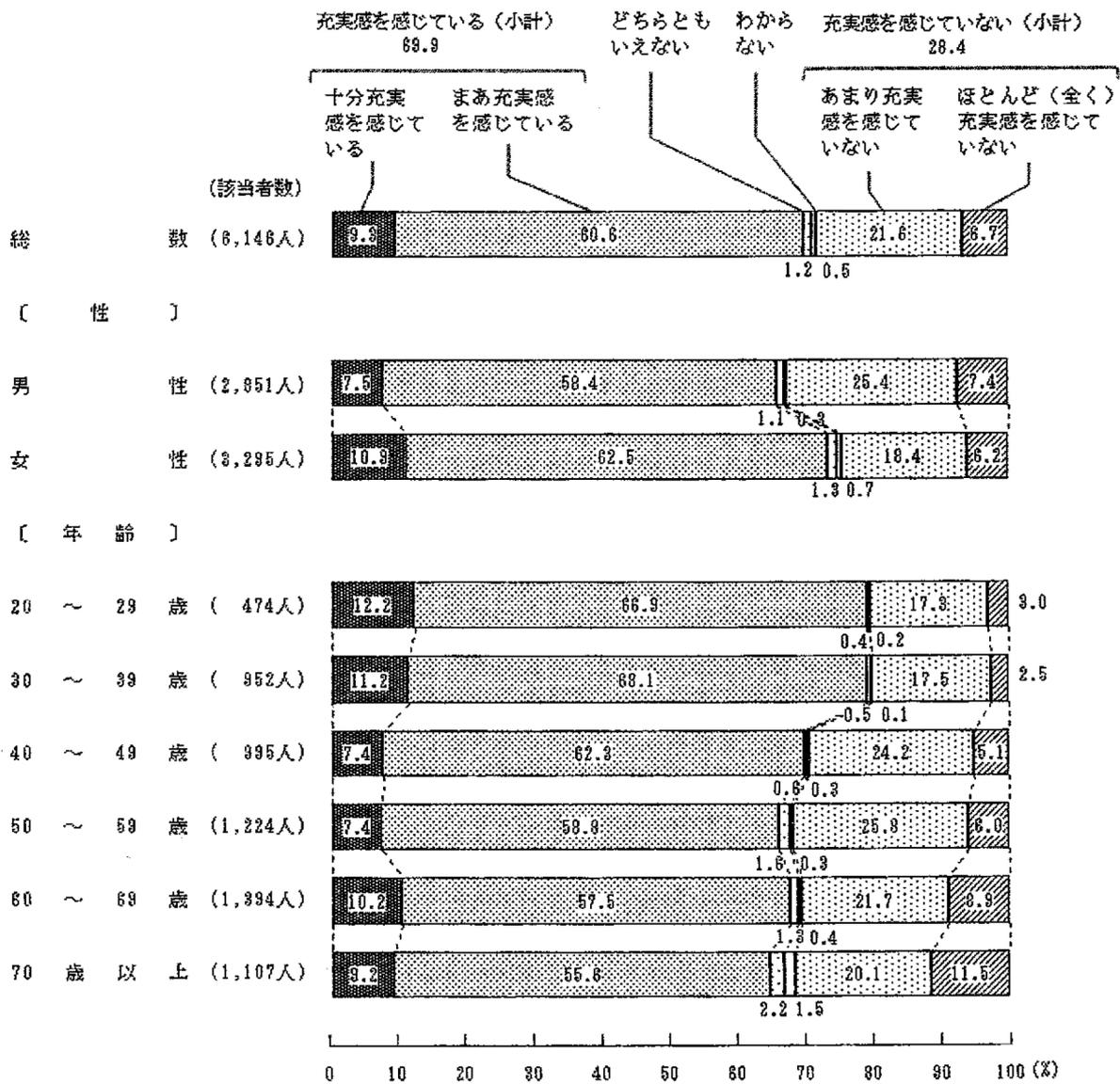
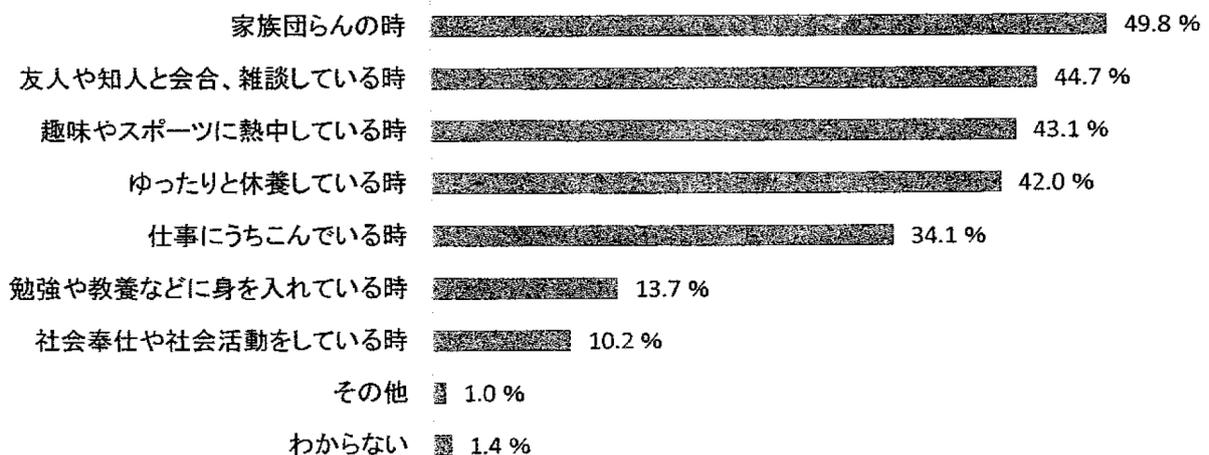


図2—A 充実感を感じる時(2008年調査)



内閣府 国民生活に関する世論調査(2008)

図1—B 現在の生活の充実感(2017年調査)

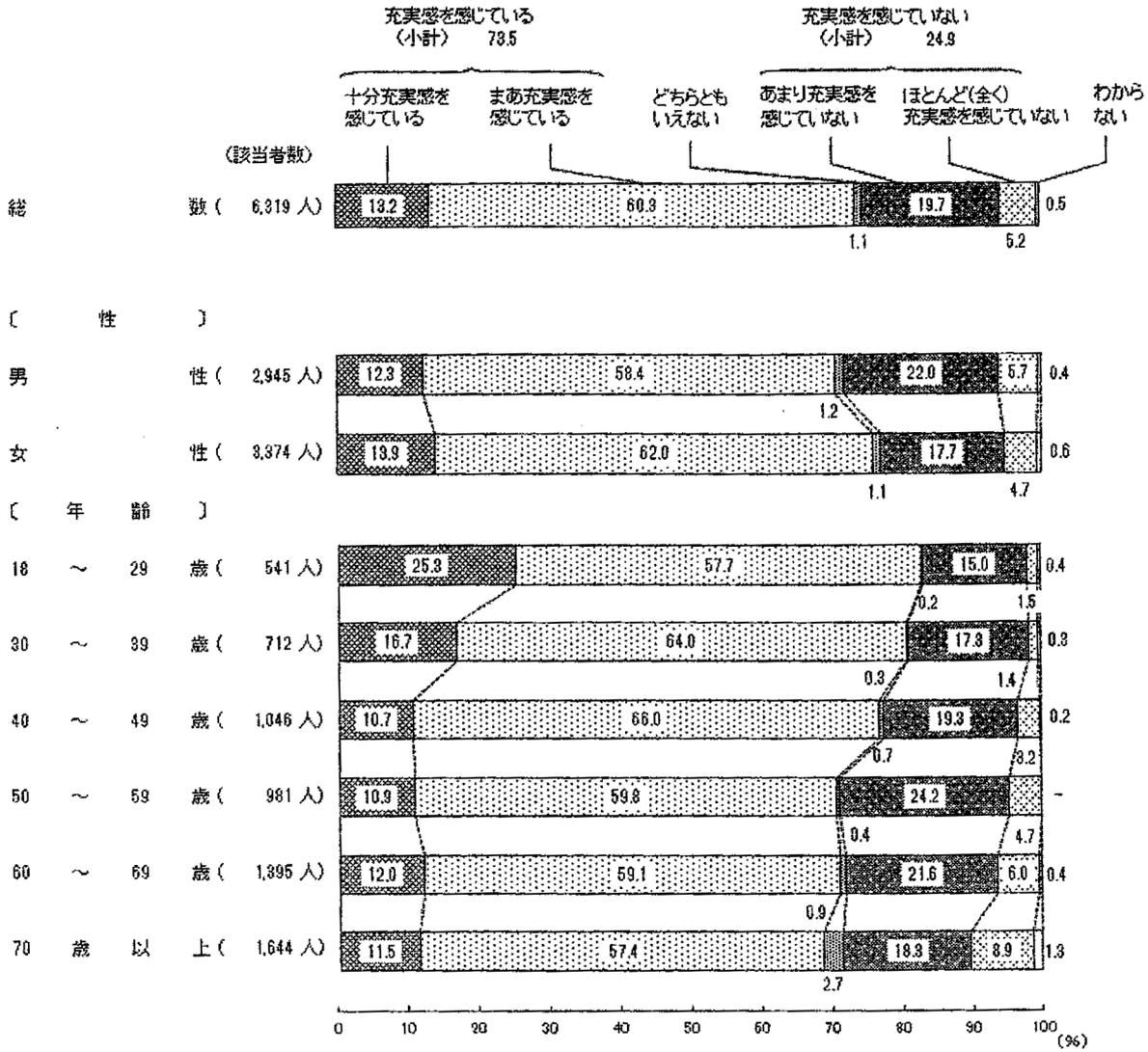
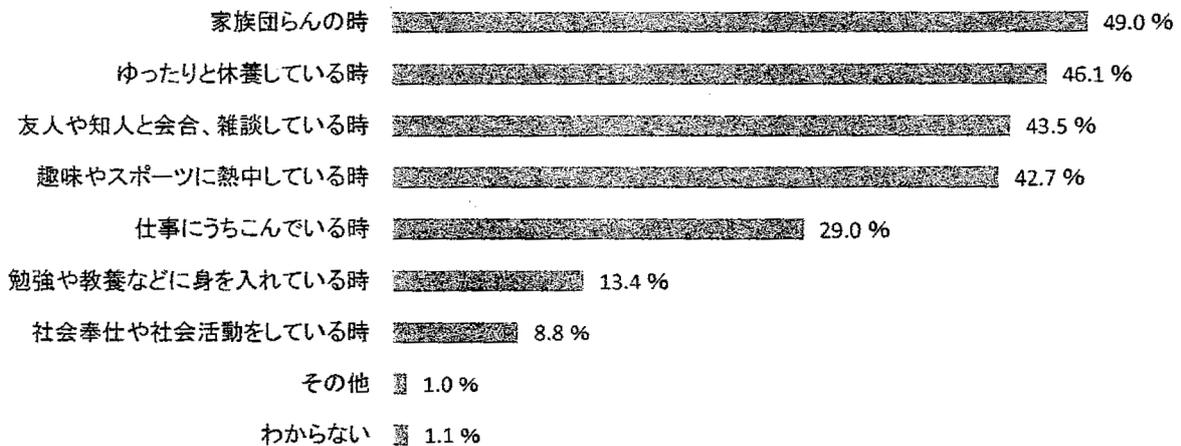


図2—B 充実感を感じる時(2017年調査)



内閣府 国民生活に関する世論調査(2017)

問1 空欄 A C には「増えて」と「減って」のどちらが入りますか。資料から読み取ってそれぞれ書きなさい。

問2 空欄 に入る言葉を資料から抜き出して書きなさい。

問3 空欄 1・2 に入る言葉を資料から読み取ってそれぞれ書きなさい。

問4 会話文中の（ ）にはどのような内容が入ると考えられますか。次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア 活動的な時間を過ごすことよりも、自分の時間を大切に過ごすこと

イ のんびりと時間を過ごすことよりも、活動的な時間を過ごすこと

ウ 自分のために時間を使うよりも、他者のために時間を使うこと

エ 家族と時間を過ごすよりも、夢中になれることに時間を使うこと

6 部活動の週休二日制について、あなたはどのように考えますか。「賛成」・「反対」いずれの立場かを明らかにして、あなたの考えや意見を〔注意〕

にしたがって書きなさい。

〔注意〕 ① 題名は書かずに本文から書き出しなさい。

② 「賛成」・「反対」の理由をあげて書きなさい。

③ 原稿用紙の正しい使い方にしたが、全体を百六十字以上二百字以内にまとめなさい。

これで問題は終わりです。

別紙1 (本文は、設問の都合で省略した箇所があります。)

物事を考えるにあたっては、本質を把握することが何より(1)も大切です。要するに個々の木を見る前に森の姿、森の全体像をしっかりとらえることが肝要です。最初に物事の本質を的確につかんでおけば、間違える確率が大幅に減少します。

物事の本質は、たいていシンプルな※ロジックでとらえることができます。なぜなら、人間は本来シンプルな生き物だからです。逆に言えば、シンプルなロジックで理解できないものは、本質をとらえていない可能性があります。複雑で細かな話は、精緻な議論をしているように見えても、意識が枝葉の部分にとどまり、テーマの全体像(幹)が見えていない場合がほとんどです。

難しいことをよく知っていて賢そうに見えるけれども、話を聞いていると何が何だかわけが分からなくなる人は、たいていが(2)このケースです。じつは話している当人も分かっていない、あるいは、わざと難しい話をして聞いている人を煙に巻こうとしている場合もあります。国語だけで語る人も怪しいと思います。私たちはそういう人を見抜かなくてはなりません。偽者を見抜く力も教養の一つです。

テレビの討論番組などでは、識者と言われる人たちが、ああでもないこうでもない、延々と議論を重ねています。ほとんどの場合、枝葉末節のところを話しているだけで、本質的な議論になっていないように思えてなりません。本質の部分で話し合えば、どのようなテーマであっても、一時間もあれば終わるはずです。テレビ番組なので、出演する側も見ると、ワイワイやること自体が楽しければ、それはそれでいいということなのでしょう。

「木を見て森を見ず」という諺があります。一般に「森」の議論はシンプルなものです。細かくややこしくなるのは「木」や「枝葉」の話に終始するからです。そもそも人間はそれほど賢い動物ではありません。むしろ単純な動物です。そうした人間がつくっている社会も、その本質は単純であるはずです。そうであれば、人間社会の本質は誰でもシンプルに説明できるはずだと私は思うのです。

(中略)

物事の本質をシンプルにとらえるにあたっては、「何かにとえて考える」と案外有効な場合があります。そういえば、世界各国の民話や昔話は、たとえ話にあふれていますね。一つやってみましょう。

教養を身につけようという話をする、「私は小さいころからたくさんの本を読んできたわけではないし、頭もよくありません。とても無理です」と言う人がいます。教養を身につけるのは、本当に難しいことでしょうか。

教養を身につけることを水泳に当てはめてみます。世の中には、泳ぐことができる人と泳げない人がいます。たいていの人は、泳ぎ方を習ったら泳げるようになります。しかし、オリンピック選手並みに泳ぐことはほとんどの人ができません。つまり、そこそのレベルで泳ぐことなら誰にでもできるけれど、超一流レベルの泳ぎはそう簡単には身につかない、ということなのです。

しかし、ちよつと考えてみてください。プールや海辺で水泳を楽しむのに、オリンピック選手並みの技量が果たして必要でしょうか。英語も、何も全員が通訳並みに話せる必要はありません。世界の人は、プライングリッシュで堂々と意思疎通を図っているのですから。

教養も(3)同じこと。そこそのレベルであれば、誰でも身につけられるけれど、ノーベル賞レベルは普通の人には無理だということなのです。普通の社会生活を送るためには、そこそのレベルで十分なのではないでしょうか。「自分には教養は身につかない」と思っている人は、おそらくノーベル賞レベルの教養をイメージしているのです。

このように何か別のものになぞらえて考えてみると、物事の本質が

見えてくる場合がよくあります。一見、複雑で混沌として見えるものでも、ほかのものにとえて抽象化すれば、本質をとらえやすくなるのです。これも「自分の頭で考える」コツの一つです。

比喻で考えるとき、最初に何にとえるかが難しい、という意見もよく聞きます。その通りだと思います。コツは、できるだけ自分の日常生活にひきつけて考えることです。

部下を厳しく指導したら、すっかりヘソを曲げてしまった。(4)どこに問題があったのでしょうか。そのようなときは、部下をパートナーに置き換えてシミュレーションをしてみると、案外簡単に答えが見つかったりします。パートナーが怒るようなことは、はじめから部下に対して行うべきではないのです。皆さんは、大切なパートナーに「根性をつけるため、東京駅で名刺を一〇〇枚もらうまで帰ってくるな」などと言えますか(このまったく当たり前のことが分かっていない上司がたくさんいるのは本当に困ったことだと思います)。

(中略)

物事の本質が「修飾語」によって見えにくくなっている場合もあります。とくに「国語」で語られるとき、美しい言葉や巧みな言い回しによって飾られてしまうと、ときには物事の本質がより見えにくくなる必要があります。そういうときは(5)「修飾語」を取り除いて考える必要があります。

たとえば、地球について、「母なる地球が私たちの生命を育んでくれる」などと、情緒的に表現されることがよくあります。「母なる地球」という表現からは、温かく、やさしく私たちを包んでくれるイメージが湧いてきます。そこから連想されるのは、「人間にとってやさしい地球」です。

文学の世界ならそれでもいいでしょうが、地球について冷静に考えようとするときには、誤った理解を招く恐れがあります。地球は、物理的には鉄などの塊にすぎません。東日本大震災に見られるように、プレートが少し動いただけで人間は簡単に死んでしまいます。地球は人間の感傷とは無関係に、物理的メカニズムによって動いている、たんなる物体です。このような問題を扱うときには、「母なる地球」ではなく冷徹に「地球」として情報を読み込み、考える必要があります。

言葉の問題だけではありません。「修飾」は別の形でもつきまといまいます。たとえば、あなたの好きな人が発言した場合と、嫌いな人が発言した場合とでは、内容が同じでも受け止め方が違ってくるはずで、人間は感情の生き物です。感情が思考に影響を及ぼします。

好感を抱いている人が「車を運転するときは制限速度を守ろうよ」と言ったら、「たしかにそうだな。さすがにこの人はいいことを言うな」と感心するのに対して、快く思っていない人が同じことを言うと、「そんな杓子定規な話は現実的じゃないよ。制限速度プラス一〇キロぐらいは何の問題もないさ」と反発を覚えるかもしれません。

それどころか、同じ人が同じように発言しても、時と場所が違うだけで、印象が変わる可能性すらあります。内容とは別の「修飾」の部分によって、情報に対する私たちの感受性は万華鏡のように千変万化します。これは逃れることのできない(6)人間の宿命です。

それだけに、本来私たちにはそういう性癖があるという自覚が求められます。何か物事について考える場合、自分はいま「修飾語」に影響されていないかどうか、内容本位、本質本位できちんと考えているかどうかを、常に自己確認する必要があります。

注(※) (出口 治明『人生を面白くする本物の教養』)

ロジックII説明や考え方を正しく進めて行く筋道。論理。

広くなったり細くなったりしながら緩やかに流れてきた川が、東に大きく西に小さく寄り道した挙げ句、風に煽てられて機嫌よくハミングする辺りに私の町がある。父の父の父の代あたりまでは、川上で氾濫してよく堤防を決壊させたと聞くけれど、そんな話が冗談に聞こえるほど、いつも穏やかな童謡のように流れていく川と、そこに寄り添うような町。私はここで生まれ育った。田舎だと言われたらちよつとむっとするけれど、都会かと言われれば自ら否定しそうな、(1)物腰のやわらかな町だ。

「田舎のわけないだろ」

父は言う。うちみたいな商売は田舎じゃ成り立たないよ。それが父の自負だ。田舎かどうかというのは、都心に出るのにかかる時間や、ブランドショップの数や、駅前の土地の値段なんかとは関係がないらしい。田舎か、都会か、うちが食べていけるかどうかにかかっているというのがおかしい。でも、もしも田舎だとしたら私たちはここで暮らしていけないんだな、というのが子供の頃から胸にあった。この町に食べさせてもらっているのだ。

「町は店で決まる」

それも父得意の言い分だった。娘の目からも父がそんなに熱心に商売をしているように見えなかったけれど、それでもうちの店があることがこの町の一端を表しているのだとすれば、やっぱりうれしい。父が町に認められるようであれ。

店の名前はマルツ商会という。津川の津を丸で囲んでマル津と読ませる。(2)情緒も何もない、そのまんまの店名だ。名前を聞いただけでは何の店かわからない。聞いてもわからない、と子供の頃はよく友達に言われた。

(3)フルドーグヤ。父はそう言った。友達はフルに納得がいかない。真由も未知花ちゃんも顔を見あわせて、なんでシンじゃないの、と訊いた。フルでも売れるの？ 幼かった私は一緒になって首を傾げた。たしかに、他の店には新品しか置いていない。読み古した新聞だとか、醤油の染みのついたブラウスだとか、食べかけの林檎だとか、そんなものはどこにも売っていない。うちの店にある品は、古ければ古いほど大きな顔をしているみたいだった。祖母は亡き夫が始めた店をフルドーグヤとは言わず、コットーヒンテンと呼ぶ。コットーヒンテンに？ 友達が訊いても私に説明はできない。古道具も骨董品も私の手にはあまりあった。

店にはフルが揃っている。皿だとか椀だとか、由緒正しい掛け軸だとか。お客さんは唸る。長いこと見入っていて、それから小声でなにやら父と話し始める。それでまた長いこと見入る。うんうんうなずきながら眺めたりもする。※一見さんは少なく、たいてい見知った顔だ。対する商品も、知った顔が多い。どんどん出ていったり入ってきたりすることがない。そこも他の店とは違うところだ。

簡単に手を伸ばしたり、触れたり、ちよつとしにくいようなものが並ぶ。アンティークと呼ばれるような、若い人にうけるお洒落な品物はない。そのあたりを飛ばして、いきなり生活の塊がごろごろするコーナーが現れる。町の人たちから預かった品々だ。それらは一か所に集められ、それでもきちんと正座してお客を待っているような顔をしている。でも私は、この委託品の一角が好きになれなくて、無論父の好みでもないはずで、だから、あるとき訊いたのだ。

「どうしてああいうものを置くの」

父はやっぱり口の端を上げて私を見た。

「うん、面白いだろ」

持ち込む人は、その品物に価値があると信じている人がほとんどだ。どんなにわくがあるか、その品に込められた思いや、それを自分がどんなに大事にしてきたか、滔々と語っていくのだそうだ。その話が話し手に近ければ近いほど面白い。逆にただの品物自慢だとまず面白い。自慢するような品なら店の中にくらでもあるのだ。

亡くなったご主人が大切にしていたという壺を、年配の婦人が持ち込んだ。

「いわれは特に聞いてませんから」

最初はつまらなさそうにさっさと置いて出ていこうとした婦人は、父の出したお茶を飲みながら、やがてぼつんぼつんと語りはじめたのだという。

まだ結婚したばかりのある夜、地震があった。婦人は咄嗟に、隣に寝ているはずのご主人に手を伸ばした。ご主人はすでにいなかった。飛び起きて、棚に飾ってあった壺を抱えていたのだそうだ。何年か経ったある日には、子供たちが遊んでいて壺に触れそうになり、ご主人が血相を変えて怒鳴った。そんなに怒るくらいなら大事にしまっておけばいいじゃありませんか、と婦人はあらためて憤ったように話したという。

それがね、と父はおかしそうに言う。壺にまつわるご主人との思い出を二時間も話すうち、婦人は壺を大事そうに撫ではじめた。いったんは店に置いて帰ったものの、三日も経たずに引き取りにきたらしい。「そうするとき、壺だけじゃなく、毎日自分たちが使っている物や、店にある他の品物に対する(4)目も変わってくるんだな」

「どう変わるの」

「うん」

父は私を見て、じわりと笑った。

「そうだな、麻子の考えてるとおりだよ、だから『ああいうもの』も置いてるんだ」

私は店が好きだ。

朝、誰もいない店に入り、澱んだ空気に身を浸すのが好きだ。窓を開けて風を通す前の埃っぽい匂いを嗅ぐと、全身の毛穴が閉じて余分なものが何ひとつ出ていかない、落ち着いた気持ちになれる。

サンダルを履いて、店の中をぐるっとひとまわりする間に、足は勝手に何度も止まる。ここに唐代の水瓶、あの棚に根来塗りの盆、こっちはアケビの籠。床や棚にいつもの顔を見つけてほっとする。売れないことに安心していいんだろうか、とちよつとだけ思う。いいんだよ、と父なら言うだろう。好きなものが売れないことを父はたぶん本気でよるこんでいる。備前の皿、香炉、伊万里の猪口。そこにそれらがあつて、目が合うだけで、ふくふくとよるこびが湧き上がる。順々に眺めながら、ゆっくり足を進める。視線を移す。

常滑の壺も、素性のよくわからない肌の美しい甕も、私を待っている。私に話しかけようと、じつと機会を窺っているように見える。気安く声をかけてくる陽気なもの、気難しそうにむつりしているのも、性質はいろいろだけど、みな、眺められ、話しかけられるのを待っている。ときどき、なんと声をかけていいのかわからないのも並んでいる。そういうときは向こうから話しかけてくるのを待って、じつと耳を澄ますばかりだ。

(宮下 奈都『スコーレNo.4』)

注(※)

一見料理屋などなじみではなく、初めてであること

二〇二〇年度 入学試験解答用紙  
 注意 1 (I)(II)(III)それぞれに受験番号を記入する。  
 2 ※印の欄には記入しない。

国語 (I)

1

① 漂う

う

② 裁つ

つ

3

会釈

④ 顕著

③ 頭著

著

2

⑤ つとめて

⑥ かまえる

⑦ けんやくする

⑧ ふんきして

2

問 1

問 2

問 3

3

問 3

4

問 4

5

問 5

6

問 6

受験番号

1・2
得点
※

二〇二〇年度 入学試験解答用紙

国語 (II)

3

問 1

問 2

3

問 3

30 15

4

問 4

45

4

問 4

40 20

4

問 1

(1)

(3)

5

問 2

25

5

問 1

問 3

15

5

問 1

A

B

C

5

問 3

1

2

問 4

問 2

受験番号

3・4・5
得点
※

